

第1回協議会における意見と対応

令和6年1月31日  
第2回協議会

資料2

NO	項目	意見（事前ヒアリングで未対応の意見を含む）	委員	計画の 関連ページ	対応・確認案
1	目標像 かわまちの周知	・境川は浦安市のまちづくり全体の背骨、中心軸で全国的にアピールするポイントで、イメージが共有されれば住民の方々のプライド・愛着につながる。	陣内会長	P8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画の基本方針において、「浦安の背骨 境川」を本計画の目標像として提示している。</li> <li>・今後、かわまちづくりの周知にあたりこの目標像を前面に打ち出していく。</li> </ul>
2		・新橋付近で生まれ育ったが、自分の境川のイメージは真っ黒い川で下からメタンガスが噴き出てくるような臭い川。今はすごくきれいになったイメージで大変感慨深く、その中でかわまちづくりが始まったのは大変良い。 ・本当に目的をしっかりとっていくためには市民にとってキャッチーな言葉というのは重要ではないか。事業を行う時にも必ず繰り返し投げかけていくと市民の皆さんの心にもそれが入り広がっていくようになれば良い。	増田委員		
3		・基本方針の「自然環境と生物の再生」の「再生」について、「原風景を残しそれが生活とうまく密着するのか」と考えると違和感がある。「進める会」のメンバー間でも「かつての境川」のイメージが一致しないため、もう少し議論をして「再生」という言葉を入れた方がよいのではないか。	横山委員	P8	
4		・カフェだけでなく、何かほかに公園などがあって初めてカフェが活きてくると思う。それが正に境川になると思う。	清家委員	—	
5	計画の構成	・計画書のソフト部分の記述と、ハード部分の記述の文言が対応していないように見え、「ハード整備によりどんな活動や水辺の使い方につながるのか」ということが分かりにくく、結果として計画を見た時の期待感につながっていない。 ・全体図の中にハード整備の内容はあるが、キッチンカーやカフェ等、ソフト施策の具体的な内容が落とし込まれていない。	佐々木 副会長 【欠席】	P20～28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料3において3Dパースを俯瞰情報にし、ハード施策により実現・拡充できるソフト施策を落とし込んだ。</li> <li>・その他、計画書においてもソフトとハードの対応を示す表や記述を追加した。</li> </ul>
6		・キッチンカーやマルシェ、ピアガーデン等は手段やメニューであり、その前にテーマあるべきでないか。	鈴木委員	P8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・懇談会の中で議論し定めた3つの基本方針を大きなテーマとしており、これに基づき、施策を展開していく。これを分かりやすく伝えるよう、計画書において基本方針毎にソフト施策を掲載するとともに、「ソフト施策に対応したハード施策」において基本方針毎にハード施策の項目を示す表を作成した。</li> <li>・どのようなキッチンカー、マルシェの出店を促していくか等、より詳細のテーマについては設定の必要性も含め協議会や進める会の中で議論していきたい。</li> </ul>
7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各団体で行われている活動は素晴らしいもの。</li> <li>・「体系的にこの活動が先に進んでいる」「良くしている」ということを皆が実感できるとモチベーションも続き、後継者もできるのではないか。</li> </ul>	鈴木委員	P6～7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「河川空間の利活用状況」に既に実施されている境川での活動、「かわまちづくり検討開始後に実施した新たな取組」に試行的に実施している活動を掲載した。</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・境川のこれまでの検討経緯と、すでに現地でいろんな活動をしていらっしゃる方々の熱量というのは素晴らしい、より具体的にさらに発展していくことができれば本当に素晴らしい。</li> <li>・そのためには、「今制約がある中でもいろいろな活動が行われている」ということの「価値」を、もっと多くの人に共有していただき、参加の輪を広げ、その機運を具体化していただきたいと思うので、そのための資料作りを含めた媒体が充実していくことを期待している。</li> </ul>	佐々木 副会長 【欠席】	P38～40 P23～28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進める会では、現在既に行われている活動をベースにかわまちづくり支援制度の活用により拡充できることを共有しながら議論を進め、ソフト施策を「新規事業」「既往事業強化」に分け掲載している。</li> <li>・進める会、協議会と連携し左記の視点を踏まえたかわまちづくりの周知を行っていく。</li> </ul>	

NO	項目	意見（事前ヒアリングで未対応の意見を含む）	委員	計画の 関連ページ	対応・確認案
9	運営体制	・カフェやマルシェを運営してくれるような民間の経験のあるパワフルなところが出てきてほしい。	陣内会長	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料4において境川で実施を想定している活動に類似する事例ごとの運営体制を示す。</li> <li>進める会で社会実験を行いながら、既存の活動の営利化を含む事業の拡大や民間事業者の誘致について検討していく。</li> </ul>
10		・仕組みづくりや体制づくりの議論の際には、キッチンカーやカフェなどの具体的な活動を想定し資料の作りこみを行うとよい。	佐々木 副会長 【欠席】	—	
11		・キッチンカーやマルシェ、オープンカフェ等楽しそうなメニューを披露していただいた。民間で営利なことをやっていくとあるが、事業主体が見えない。	鈴木委員	—	
12		・私たち市民団体は「小さくても実施する」というスタンスで活動しているが、事業を拡大していくのは難しい。営利的に事業が拡大できるのであればどんどんやってほしい。過去に市民活動補助金を活用しながら、ホテルや他の団体と連携して実現した活動があるが、翌年からは市の事業として実施いただいた。	横山委員	—	
13		・今浦安で活動している団体の皆様は全国に負けないような活動だと思っている。 ・そこにプラスして営利活動の方とタイアップしていければ、本当にこの境川を中心にまちの活性化あるいは対外的なアピールにもつながるのではないかと。	大木委員	—	
14	地域の年齢構成	・市民からの意見の中で、水辺についての事が多く、境川の水辺にもっと近づきたいという思いがある。 ・浦安も高齢化が進み、子どもの数も減っていく。境川についてもそれらを踏まえた長期的な整理は必要。 ・高齢者、若い夫婦世代またその子供たちが境川に集まって賑わいが持てるような整備ができればと思う。	堀井委員	P10	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地域のまちづくりとの連携にかかわる課題」において、少子高齢化に伴う課題認識を追加した。</li> </ul>
15		・年齢構成や地域にどのような方が住んでいてどのような暮らしぶりや何をやりたいかなどということは今まで議論にならなかったが非常に重要である。	陣内会長		
16	施策 (水・自然環境)	・近年は、清掃活動も高齢者の健康づくりやコミュニケーションづくりに役立つとされている。 ・単に清掃というのもオブリゲーションとかモラルでやるっていうことを超えて、生きがいを感じながらみんな協力してやることによって、ムーブメントが生まれ、変わっていくのではないかと。	陣内会長	P10 P15	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地域における課題、必要性」に地域の人々の健康的・文化的満足度の向上及び交流機会の増加を追記した。</li> <li>水・自然環境のソフト施策の中「多自然かわづくりへの取組」として、境川クリーンアップを環境美化の視点のみでなく、健康づくりや境川を通じた交流の促進を図る観点からも活性化することを追記した。</li> <li>また、オープンカフェ等のイベントとの連携についても言及した。</li> </ul>
17		・水質改善への皆の思いが非常に強いが、水質調査や生物調査は子どもが関わると良い。境川の生態系を子どもに理解してもらいたい。	陣内会長	P15	<ul style="list-style-type: none"> <li>水・自然環境のソフト施策の中「多自然かわづくりへの取組」として、「子どもたちを含む多くの市民が、境川の生態を理解する」ため、境川水槽等の活動を促進することを記載し、市民の中でも"子ども"を強調した表現とした。</li> <li>水質調査や生物調査は境川かわまちを進める会で今後実施を検討していく中で、子どもの参加を促すよう検討する。</li> </ul>
18		・境川は昔は米が研げるほど綺麗であった。また、赤とんぼで学校の校舎が真っ赤に染まっていた。	大塚委員	P15	<ul style="list-style-type: none"> <li>かつての境川の自然環境と生物の再生を基本方針として打ち出しており、水質浄化等を図っていく。</li> </ul>
19	施策 (元町)	・浦安のアイデンティティの一つのコアとして漁師町があり、背後の非常に良い小道、賑やかな商店街、古い建物も全部含めて回遊性が生まれることを期待。	陣内会長	P23	<ul style="list-style-type: none"> <li>元町地域では散策路整備や水辺テラスの整備等による観光ツアープログラムの開発やカフェ、マルシェの実施、元町の社寺・路地などの保存を位置付けており、これらの事業の連携により回遊性の向上を図っていく。</li> </ul>
21		・新橋から西、江川橋からの部分を、ある程度活用できるようにするには周辺の家々の協力を得る部分が多く、それを考えて進めてほしい。	大塚委員	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施にあたっては、周辺住民への説明等、丁寧に行っていく。</li> </ul>
22	施策 (新町)	<ul style="list-style-type: none"> <li>どこかに浦安の原風景を残していかなければならないと思っており、海側にある公園予定地が候補として考えられる。</li> <li>浦安が半農半漁であった時代の「収穫後の田んぼで海苔を干していた」という文化もあるので、そのような風景を子供たちに残してあげたい。</li> <li>川の中だけでなく、その周辺に浦安らしい原体験をさせてあげる場所があれば人はいくらでも集まる。</li> <li>それを続けていく中で、企業が関心を持ち関連するようになればもっと大きなものになる。</li> <li>一つの拠点をきっちりと作り、そこに皆が集まりそこから川を下って行くという、すごく楽しく川が活きてくるかたちを作ったらよいのではないかと。</li> </ul>	後藤委員	P27	<ul style="list-style-type: none"> <li>同用地の基本計画に基づき、「境川河口部市有地の整備」として民間活力を活用しながら、いきものに配慮した護岸やイベント・水上アクティビティ実施のための棧橋等、水辺を感じ、楽しめる空間を形成する旨を記載した。</li> </ul>

NO	項目	意見（事前ヒアリングで未対応の意見を含む）	委員	計画の 関連ページ	対応・確認案
20	河川沿いの空間 の活用	・川沿いの背後の緑地とうまくつなげてオープンカフェやマルシェを行う事もできる。海の方へ開いていくところも素晴らしく、奥行き広がりのある空間とつなげていくことができる。	陣内会長	P27	・新町地域の緑道等を活用したオープンカフェやマルシェを計画している。 ・河川区域ではないが、河口部の整備についても計画書で言及しており、かわまちづくりとの連携を図っていく。
23		・まちづくりと公園整備と市街地整備を連携づけ、その横をつなぐものがかわまちづくりではないか。	浅川委員	P23 P27 P29	・「整備の実現方策」に関連する事業との調整・連携について記述している。 ・特に懇談会や進める会でも意見の多い新橋周辺の市街地整備、河口部市有地との連携については、元町地域、新町地域のハード整備において、かわまちづくり計画にも事業として位置付けている。 ・引き続き関連事業との連携を図りながらかわまちづくりを進めていく。
24		・河川だけではなくその周辺についても利用のルールやカフェ等を開く上での景観的なルール、皆が歩き易くなるルール作りが必要。	浅川委員	—	・進める会や協議会で議論しながら進める。
25	維持管理	・元町付近の境川を歩き、ゴミは落ちていなかったが鳥の糞で道路が白くなっていた。改善すると皆が気持ちよく利用できる。	清家委員	P32	・市として適正な維持管理に努めるとともに、日常的な管理については、河川空間のオープン化により市民や民間事業者と連携した維持管理体制についても協議会や進める会において今後検討していく。
26		・作っておしまいではなくメンテナンス的なところも考えて進めてほしい（市民活動でもできる要素もある）。	浅川委員	P32	・「維持管理計画」において維持管理の実施主体を示しているが、河川空間のオープン化に伴い、民間事業者等による管理も今後想定されるため、詳細については運営体制と併せて協議会、進める会で議論していきたい。